

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年 4月 22日

事業所名 放課後等デイサービス ぐん☆ぐん

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			遊戯室や園庭、同法人の保育園など活動によって場所を変えている。	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			契約時に施設を確認してもらい、ほとんどのお子さまが必要ないですが、個々の対応として手すり等の設置を行っている。、施設全体はバリアフリー化ではない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			ミーティングや業務日報の記録等を活用して共有周知している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○			前年度は項目によっては、改善できていないところもあったので、具体的に改善案を出して進めていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		外部評価は検討中である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			経験年数等で研修の内容を考慮し職員の偏りがないよう配慮している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○			事業所として、アセスメントツールを使用はできていないが、医療機関等での検査結果を支援の参考にしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			学童クラブと合同で行うイベントなどでは、担当を決めて合同で進めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			前年度と内容が重なったりしないよう工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日は曜日ごとにプログラムを決めて活動。休日や長期休暇には、園外活動を増やして子ども達が楽しめるよう計画している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している		○			活動プログラムは、小集団のプログラムしかないため、個別活動はフリータイムで支援している。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝礼・送迎前ミーティングで共有確認をしている。また、併設する学童クラブの職員とも情報共有を行い連携を図っている。		

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			業務日報やメール連絡、翌日のミーティングで情報共有している。	職員同士どんなことでも声を掛け合って利用者の気づきを見逃さないよう努めている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				記録の精査が必要だという意見があり、導入している記録について見直したい。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○					
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				会議には極力自発管だけでなく、利用者担任も同席するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				・学校の連絡帳やお便りを印刷確認している ・各小学校の連絡メールに登録依頼し活用 ・下校時学校の先生に様子を確認	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		該当者なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○					
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○					依頼があった場合には、会議等に参加し関係機関と連携している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○			主催する研修会があった場合には参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				併設する学童クラブと日々活動する機会を設けている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○					管理者だけではなく職員にも参加するようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				お迎えの際に、些細なことでも保護者の方とお話して、連携を図っている。	保護者の方が職員をより身近に思っただけよう、保護者対応に力を入れている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○			事業所独自で研修を主催することはできていないが、外部研修等をご案内している。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時、必要な時に随時行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	年に1回親子イベントを企画して保護者同士のつながりが持てるよう支援している。	コロナの影響で保護者会が開催できなかったので、来年度は年間計画に入れ込んで企画していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			保護者用連絡アプリ『コードモン』を活用して活動内容や写真等を発信している。	毎月の予約カレンダーに行事予定表を盛り込んでいるが、会報は出してないので今後検討したい。
	35	個人情報に十分注意している	○			SNS発信時にはダブルチェックをして確認している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	今年度は、『もちつき』を開催し地域の方をお招きすることができた。	コロナの影響が緩和しつつあるので、来年度は地域とのつながりができる活動を企画していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○		保護者の方に周知できていないことが分かったので、閲覧場所を変えて手に取ってもらいやすいよう改善したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練年3回 職員研修(AED等)年2回以上	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			今年度は、3名の職員が研修に参加することができた。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	該当者なし	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			学童クラブの職員にも共有するようにしている。	些細なことをすぐに記入できる書式や方法を考えて改善に取り組んでいる。